

# AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

## TOP INTERVIEW

秋田商工会議所  
会頭 辻 良之氏

昭和31年秋田市生まれ。平成14年4月辻兵商事(株)社長・平成16年5月秋田いすゞ自動車(株)社長へ就任。平成28年11月より秋田商工会議所副会頭を務め、令和4年11月第20代会頭に就任。会頭就任時に掲げた5つの重点事業である「中小・小規模事業者の経営支援」「カーボンニュートラルへの取組み」「中心市街地の活性化」「秋田港の港湾機能の強化」「環日本海交流の推進」を柱に、将来へ向け希望の持てる秋田の創造へ向けて、会員企業の英知を結集し地域総合経済団体として秋田の発展のため各種事業に取り組む。



## 秋田の自然資源「風」を活かし、新しい産業を創造

**工藤** いつも色々とお大変お世話になります。早速ですが会頭の生い立ちや経歴についてお聞かせ下さい。

**辻** 生まれは昭和31年(1956年)7月です。秋田大学附属幼稚園から附属小・中学校、秋田高校へ進学し、小学校の高学年から父親の影響でバスケットを始めました。バスケットのスピード感に魅了され高校まで続けました。当時はスリーポイントシュートのルールも無い頃で、とにかくスピードと体力が重要だったように感じます。

**工藤** さすがバスケット王国秋田ですね。ちなみにバスケットボールの経験が仕事に活かされたことなどはありますか？

**辻** 昭和58年に秋田いすゞ自動車のバスケットボールチームが全国優勝を果たしました。当時の監督が「勝った者にしか見ることができない景色がある」と言っていました。勝った時の喜びや感動、また勝ちたいという向上心を掻き立てるエネルギーは、商売や仕事の様々な場面でも同じような感覚があります。社員たちにもそんな景色を少しでも多く体験させたいですね。秋田いすゞ自動車には「信頼の絆」という企業理念がありますが、この考えもまた私たちのイズムのようなものと思っています。目標達成に向けてとても大切な考えとなっています。

**工藤** 成功体験って大切ですね。全面的に強く共感です。バスケットに熱中した高校時代を経て、卒業後はどのような進路を選択されたのでしょうか？

**辻** 卒業後は東京の慶応義塾大学法学部法律学科に入学し、テニス同好会で汗を流しました。大学卒業後は大阪本社の総合商社に入社し、主に国内向けの建設資材の営業を4年程経験し、その後28歳で秋田に戻りました。当時の株式会社辻兵(つじひょう)で衣料品関係の小売業に関わる仕事などに従事しながら、秋田いすゞ自動車の仕事にも携わっていました。辻兵は元々呉服業を営んでいましたが、時代変化に伴い事業を整理し、現在は外商の部分だけを残し辻兵商事株式会社として事業を営んでいます。その後平成16年(2004年)に、秋田いすゞ自動車株式会社の代表取締役社長に就任。それ以前も副社長等の立場で何年か仕事に携わっていましたが、当時の辻兵の区切りと同時に、再スタートを切った思いでした。

**工藤** なるほど。秋田商工会議所との関わりはいつ頃からあったのでしょうか？

**辻** 辻兵時代はやや薄めの関わりでした。当時は父が会頭を務めていたので、何となく出入りはしていましたが、その頃は何をやっている組織なのだろう？と正直あまりよくわかっていませんでしたね(笑)。その後常議員になって少しずつ内容や重要性も理解が進み、徐々に感覚も変わってきました。前会頭の2期目から副会頭を拝命し、部会も担当するようになりました。特に運輸交通部長を3期務めたことで、運輸関係の要望活動や海外との交流ミッション等にも参加し、商工会議所への理解度が更に進んだように思います。

**工藤** 一昨年会頭になられてからは、いつもお忙しそうにお見受けしておりましたが…。

**辻** そうですね。副会頭時代とは全く景色が違いました。副会頭をしながらいつも前会頭の傍にいましたし、大変な仕事だとは思っていましたが、そもそも自分にその役割がまわってくるとは思っていませんでしたので。(苦笑)

**工藤** 実際にやってみて、忙しさ以外に何かしら思うようなところはありますか？

**辻** 想像以上に使命と責任が重く感じています。秋田市の中小企業等の経営支援は主要な任務ですが、昨今のコロナ禍や水害により経営が厳しい企業が増えました。まずはいかに支援をマッチングさせていけるか、また伴走型の経営支援と表現していますが、経営者の方々と一緒に現状打破をしていくことが求められます。もちろんこの間、とても辛く厳しい状況であった分、事業者も私たち秋田商工会議所も様々なことを知り得る機会にもなり、より一層自分たちの果たすべき役割や使命を感じているところです。

**工藤** 経験を活かし、秋田商工会議所も秋田の経営者も、もっと強くなる必要があるのですね。私も経営者の端くれとして心に刻みます。話は少し変わりますが、今後地方創生を進めていく中で、秋田経済において会頭が注目していることなどはございますか？

**辻** 脱炭素、カーボンニュートラルに世界中が向かっています。今後自動車業界では、ほぼ全ての車が電気で動く時代になるでしょう。そんな中、秋田には「風」という非常に魅力的な自

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

然資源があります。しかし、ただ風で電力を起こすだけではなく、それを地域経済に持続的に還元させることが重要です。秋田は元々地下資源に恵まれた地で、過去には石油や鉱山もありましたが、現在でもそれを生業にしている企業はごく稀です。私たちは風という資源から生まれる、電力、クリーンエネルギー、水素、蓄電などを、持続的に地域の経済効果に繋げる必要があります。秋田商工会議所もそんな事業にどんどん取り組んでいきたいですね。

**工藤** 過去の鉄を踏まないようにどういったことを意識したらよいとお考えですか？

**辻** 電気は電池以外には貯めておけない。そして使ったら無くなってしまいます。ですから電気をいったん水素やアンモニアに変え、また電気に戻すようなシステムも必要だと思っています。或いは生産した電力をどう備蓄するか？例えば超巨大蓄電施設を秋田港に作るといったことも今の技術では不可能ではありません。スタートは大都市圏の企業に入っただきながらも、県内企業同士と一緒に新しい産業を起こし創造しよう、秋田から日本中や世界へ、くらしいスケール感を持つことが大切だと思っています。国、県、市などの公的な機関の協力はもちろんのこと、秋田商工会議所としても旗を振って行かなくてはならないと思っています。

**工藤** なるほど。ALL秋田が必要そうですね。

私たちがのような直接的関連事業者ではない業種関係者はどのように関わり、どのように貢献できるのか？まだまだイメージがつかない人も多い印象にも感じますがいかがでしょう？

**辻** 昨今、観光分野では、クルーズ船や台湾チャーター便などが好調ですね。でもただ外から来てもらうだけでなく、私はこちらからも観光客を取りにいかなければならないとも思っています。秋田の海岸線に並ぶ風車。あくまで例えばですが、ライトアップするなど、その見せ方を工夫することで一つの観光資源にもなりえるのでは？新たな観光資源を創造していくことが重要に思います。東京湾の夜景を楽しむ周遊クルーズ、羽田空港の離着陸をみる展望デッキは既に観光スポットです。秋田の風車を上手に見せながら、それらに食、伝統芸能、花火、秋田犬など、全国的に認知度が高い従来の観光資源を掛け合わせて新しいものを創り上げていければ、点と点を線にできます。そこを動かすプロデューサーがいれば尚良いと感じます。

**工藤** ありがとうございます。なんだか急に頭の中に色々なアイデアと可能性が広がりました。私も点と点を線に結ぶプロデューサーを目指し頑張ります。(笑)

最後に、会頭が仕事上で大切にしていることがあれば教えてください。

**辻** 小売業の神様といわれる倉本長治氏が「商売十訓」という本の冒頭で記した「損得よりも先に善悪を考えよう」という言葉があります。ずっと私が大切にしている言葉で、迷った時は今でも読み返します。私の仕事への基本姿勢においてもとても大切にしています。

## 損得よりも先に善悪を考えよう

ちなみに、小さい頃からプラモデルを作るのが好きだったという会頭。最近は少し忙しいので中々時間が取れていませんが、仕事の合間を見つけて飛行機のプラモデルを作りたい。趣味の時間は無心で作業できる大切な時間とおっしゃっていました。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン) アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J-MOTHERS 藤田 幸

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

